



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



品川駅の不思議

JR品川駅は品川区ではなく、東京都港区高輪3丁目および港南2丁目にある。一方、JR品川駅に隣接する京浜急行電鉄品川駅の南に位置する北品川駅は品川区にある（住所は品川区北品川1丁目）。

ついでながらJR目黒駅の住所は目黒区ではなく、品川区上大崎である。

60年安保とは何だったのか

60年安保闘争から今年は59年になるが、この闘争は一体何だったのか今に至るも国民の間ではよく理解されていないように思う。60年安保改定の内容の前に、昭和26年9月に批准したサンフランシスコ講和条約と同時に締結された「日米安保条約」の内容を理解しなければならない。旧安保条約では、アメリカに基地を提供する一方（日本国内に米軍基地を新設する場合、日本政府の許可は必要としない）、アメリカ側には日本を防衛する義務はない、また、日本で内乱が起きた場合は、その鎮圧のために米軍が出動できる（内乱条項）、という日本にとっては不平等きわまりない内容のものだったが、（いずれ見直しするとして）吉田首相は日本が主権回復することを最優先させたのである。

そして、昭和35年岸信介首相は米アイゼンハワー大統領と交渉、安保条約の見直しを進めた。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

新安保条約は、(1)内乱に関する条項の削除、(2)日米共同防衛の明文化(アメリカは日本を防衛する義務がある)、(3)在日米軍の配置に対しては両国政府で事前協議を行う、という内容である。この内容がなぜかメディア、日本社会党、日本共産党によって、「新安保条約はアメリカの戦争に日本が巻き込まれるもの」として伝えられ、大規模デモを引き起こし、6月15日には国会前のデモ参加者13万人(警視庁発表)という規模に膨れ上がり、東大生・樺美智子の圧死を招いてしまったのである。デモ参加者の多くは条約改定の内容を理解しないまま参加していたという。



(追記)月刊 Hanada6月号に「昭和天皇の直筆御製」という記事がある。その中に「岸信介の死去(8月7日の夕)>とあり、3首が記されている。その中の1首は「國の為務たる君(は)秋またで世をさりにけりいふべ(ぐれ)さびしく」である。安保闘争の時の、岸首相の孤独な戦いへの深い同情を詠まれたのである。他に政治家を詠んだものはない。

井深大と野村胡堂

ソニーの創業者・井深大は会社設立時の昭和21年当時、資金不足に苦しんでいた。どうにも立ち行かなくなったため、やむなく個人的な知り合いであった「銭形平次捕物控」で知られる人気作家・野村胡堂宅を盛田昭夫とともに訪れた。そこで何とか4万円の資金を借り、井深は苦境を乗り切ることができたのである。野村胡堂なければ今のソニーはなかったかもしれないエピソードだ。この時井深大38歳、野村胡堂63歳。

(追記1)野村胡堂は昭和38年、80歳で亡くなるが、その年私財のソニー株を基金に学生等への奨学金交付を目的として「野村学芸財団」を設立している。これは胡堂自身が学費の問題で学業



長期投資仲間通信「インベストライフ」

を断念した経験があったためと思われる。

(追記2) 井深と野村胡堂の関係・・・幼くして父親を亡くした井深は母親の手で育てられたが、その母親と、胡堂の妻「ハナ」が同僚だった関係で、井深は幼いころから野村家に出入りしていた。

日本武道館のモデルとなった建物は？

東京都千代田区北の丸公園内にある「日本武道館」は昭和39年(1964年)10月3日に開館したが、この建物は同月10日に開催された東京オリンピックの柔道競技会場として建設されたものである。オリンピック終了後は各種式典のほか、剣道、空手、合気道などの武道大会、コンサートのほか、学校の入学式、卒業式、著名人の葬儀など多目的ホールとして使用されている。

なお、日本武道館は八角形の意匠となっているが、これは法隆寺夢殿をモデルにしたものであり、大屋根の稜線は富士山をイメージしている。

